

# 花 信

*Kashin: The Shinshu University Library Bulletin*

第14号 [最終号] 2003.12

## 目 次

24時間利用の開始 …………… 1	お知らせ …………… 11
図書館ランキング最下位からの脱出 …………… 2	(一般市民への館外貸出が始まって2年たちました) … 11
信州大学の電子ジャーナル利用状況 …………… 3	(本学関係者著作寄贈図書を紹介) …………… 12
第一次企画図書展を振り返って …………… 5	分館だより (農学部分館) …………… 16
企画図書展点描 …………… 6	
「目からうろこが落ちる」電子資料の使い方 電子資料関係レファレンス事例から …………… 7	

## 24時間利用の開始

医学部分館長 福 島 弘 文

平成15年10月1日から医学部分館の24時間利用がスタートした。これまでは教官だけが開館日の24時まで利用出来たが、教授会で承認後、5、6年生を対象に平成15年の2月、3月を試行期間として夜間使用の問題点を検討した。特にこの期間は6年生の医師国家試験の準備などで多くの学生諸君が利用することを期待しての企画でもあった。最も懸念されたのはやはりセキュリティの問題である。21時に一旦退出しカードを使用して再度入館する方法をとり、入退出の不正防止のためビデオカメラで録画された。学生のアンケートからは夜間開館について概ね好評であり、日曜日と祝日を含む年中開館の希望が多かったことも注目される。ちなみに2月、3月の夜間総入館者数は325名、多い日で1日20名、平均5～8名以上が利用した。

留学経験のある方はカード一枚で何時でも自由に図書館に入る便利さを思い出されるかもしれない。最近では日本の大学でも増えてきているが、本学では今まで実施されてこなかったので医学部分館が最初の24時間利用の施行となる。期待と同時に不安視される点も多く、日曜日や祝日の利用者の有無、不正入館、不慮の事故、夜間暖房費の増額などが心配された点である。本格的に開始となった10月1日に、状況把握のため夜11時頃分館前に到着したが、入館者もなく館内は薄暗く利用者第一号が私と係長だけだったのは皮肉である。教官への宣伝不足と学生の使用開始が15日となるため今後の利用者の増加を期待しての開始日であった。現在は医学部2年生以上と医学部職員に限られているが平成16年の4月から保健学科の学生も利用可能となる。24時間開館となって図書館が学習図書館としての機能が十分に発揮されることになれば申し分ないであろう。

ところで、研究図書館としての役割は電子ジャーナルの登場によってかなり変化してきたと言えよう。何十人も在籍する医局ごとに利用頻度の高いジャーナルを常に近くに備え付けておきたいと願うことは無理のない事である。そのため医学部全体で重複購読する冊子ジャーナルの総額が年間数百万円にも達して

いた。電子ジャーナルの導入は経費面はともかく利便性の面からはやむを得ないことである。論文作成に10年以上前の医学関係ジャーナルを利用する頻度は極端に少なくなっており、学部にもよるが今後も図書館が従来どおりの研究資料保存図書館として果たす役割はそれ程大きくはないであろう。昨年から大学の統合が開始されキャンパス分散型大学が多数誕生した。独立した大学が統合され、本学のような分散型の図書館運営を強いられる状況で電子メディアを活用したネットワーク型の図書館の構築組織に変化していくのであろう。

## 図書館ランキング最下位からの脱出

国立大学が本年度で最後を迎えるにあたって

### ——図書館サービス業務の過去と現状〈報告〉

本学附属図書館は、学長をはじめ学内教職員の方々のご協力により、昨年ついに朝日新聞社「大学ランキング」で評価Bとなり他大学の平均に達しました。

これまでは、国立大学の図書館ランキングにおいて、最下位に近いという不名誉な評価が長年続いてきました。これは分館も含めた本学図書館全体への評価であり、評価のための点数基準は概ね下表の数字によります。この表は、学内において1年以上前から公表されています。この状況を少しでも改善すべく、図書館職員としても他大学の平均を目指し、図書館サービス向上のために努力してきました。

最近10年くらいに新たに開始したサービスの例として、電子ジャーナル導入、WebOPAC、外国雑誌目次情報提供 (SwetsScan)、図書・雑誌目録の遡及入力、CD-ROMネットワークシステム、Webによる資料購入及びILL申込システム、貴重資料 (多湖文書など) のデジタル化やネットワーク対応、情報リテラシ授業支援、学外者への貸出、学内DDS (文献複写) などの利用サービスの強化があります。

また、図書館で購入する資料は、全国各大学図書館等で目録を共同分担入力しています。かつては、資料を受入れ後に、目録データを入力していました。この目録データ入力及び装備などの処理期日分、先生方への引渡しが遅くなり苦情が寄せられていました。このため、目録データと受入れデータを同時に入力するかたちに、システムと業務手順を数年前変更しました。この結果、それ以前に比べ図書館としてかなりの迅速化が計られたと考えています。

一方、これらは、予算の手当や運用方法の検討などから始まって、実際の運用には多大の労力が必要となる結果となっています。そのため、サービスを低下させないでいかに省力化を図るかが、最も重要な課題となってきました。その中で、現在契約業務の扱いが問題になっています。本学図書館の現在の図書館係長の大半は、近隣大学の幾つかの図書館での勤務を経験していますが、その経験から、本学の業務内容は他大学図書館と基本的に異なっているという意識があります。つまり、多くの他大学の図書館職員が行っていない契約関係諸業務も本学では図書館が担当しています。他大学に比較し図書館の職員数が少ないうえに、他の部署の業務も抱えている現状があります。

来年度から国立大学法人化となり、財務会計システムと図書館システムが連動される予定です。現状では、図書館業務として、従来の受入れ契約関係業務のほか、財務会計としての図書資産管理や財務諸表 (仕訳処理) 業務なども加わることになります。業務量の増加が予想されますので、利用者のかたがたにはご迷惑をおかけすることもあるかとは思いますが、全体としてはBランクを維持しつつ、少しでも図書館サービスを充実できるよう努力していく所存ですので、今後の図書館改革へ向けて皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 他大学図書館との比較

\*平成13年度大学図書館実態調査結果報告(平成13年5月1日現在)

区 分	信州大学	他大学との比較(指数)			国立大学 A+B平均	国立A 平均	国立B 平均
		国立大学 A+B 平均との 比較	国立A 平均と の比較	国立B 平均と の比較			
蔵書数	1,151,198	58	40	107	1,996,008	2,859,680	1,074,758
雑誌所蔵種類数	23,616	73	51	137	32,407	46,672	17,191
年間図書受入冊数	24,728	63	43	120	39,484	57,181	20,607
年間雑誌受入種類数	8,943	77	55	136	11,602	16,304	6,587
図書貸出冊数	70,894	49	36	79	145,639	197,522	90,297
図書館間相互協力 現物貸借件数 貸出	793	60	43	103	1,316	1,825	773
借受	1,192	114	85	177	1,049	1,401	673
文献複写件数 受付	13,419	66	43	155	20,320	31,250	8,661
依頼	15,672	124	96	180	12,623	16,275	8,728
図書館面積 m <sup>2</sup>	11,823	61	44	108	19,261	27,097	10,902
閲覧座席数	859	64	49	97	1,337	1,763	883
書架収容力 冊	982,905	55	38	104	1,803,471	2,606,649	946,748
図書館職員数(専任)	35	78	54	152	45	65	23
図書館資料費 千円 (大学総経費に占める割合%)	279,971 (0.8)	53	36	101	532,457 (1.2)	773,032 (1.2)	275,844 (1.1)
図書館運営費 千円 (大学総経費に占める割合%)	320,427 (1.0)	61	41	123	527,868 (1.2)	778,980 (1.2)	260,015 (1.0)
大学総経費 千円	33,435,941	74	53	133	45,054,039	63,658,456	25,209,327

(備考) 国立大学=99大学 / 国立A=8学部以上の16大学 / 国立B=5~7学部の15大学  
比較欄は、おのおのの平均を100としたときの信州大学の指数

## 信州大学の電子ジャーナル利用状況

信州大学で本格的に電子ジャーナルが利用可能となって、まもなく1年を過ぎようとしている。一部の出版社や個々のタイトルは2002年から利用可能となっていたが、大学としての本格的な電子ジャーナルの利用は2003年からであり、利用可能なタイトルは出版社系パッケージを中心として12月現在で6,000タイトルを超えている。

電子ジャーナルの利用方法やタイトル等は、附属図書館ホームページ、図書館ニュース、説明会及び「花信」で紹介してきた。最近になって統一的な基準に基づく比較対照が可能な集計結果が出版社側から徐々に提供されるようになってきたことから、今回は電子ジャーナルの簡単な利用状況を紹介する。

### 1. アクセスの推移

パッケージ化された電子ジャーナル・データベースへの接続や検索等の行動の総数をカウントしている。これを見ると、時期的に変化しながら全体としては増加傾向にある。この件数は、それぞれのパッケージのホームページ経由で利用したもの、直接タイトルのURLを利用したもの、参照・引用文献からリンクを辿ったものその他の多様な利用行動をカウントしている。

### 2. 論文等利用推移

掲載論文等の全文、抄録、目次その他をPDFあるいはHTML形式で閲覧利用した件数は、おおむねデータベース利用状況と同様な時期的変化があり、また全体としても同様に増加傾向を示している。この件数は、図書館や研究室等で雑誌を探し、目次などをたどって必要な論文を読み、あるいは参考文献を読むと

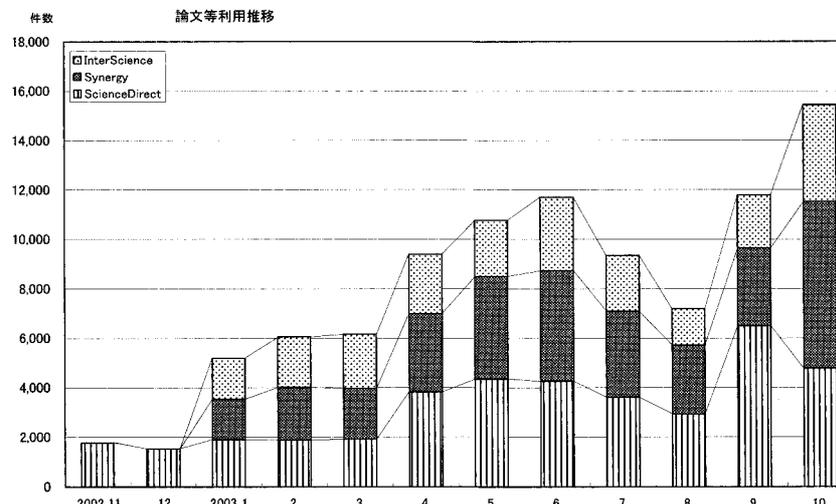
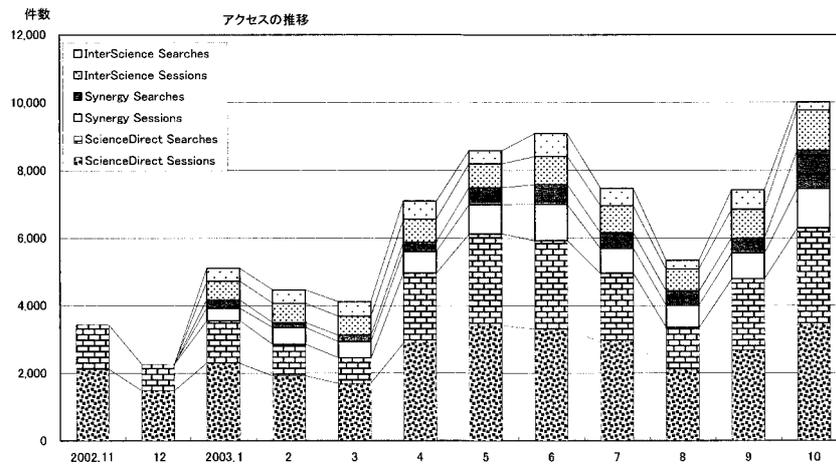
いう利用形態に近いものである。

パッケージごとに見ると、必ずしもアクセス数の動向と一致しているわけではなく、電子ジャーナルへの慣熟度のほか、パッケージ、タイトル、論文の重要度、必要度の違い、反復利用による結果が反映しているものと考えられる。

### 3. 今後の利用状況の調査

今回は3つの電子ジャーナル・パッケージの利用動向を紹介した。この統計はCOUNTER (Counting Online Usage of Networked Electronic Resources) と呼ばれる機関が提唱する世界標準仕様を基礎とするものである。このデータは、電子ジャーナルの利用形態、タイトルの利用度、論文の利用方法など電子ジャーナルの利活用、評価等に関する重要な資源である。今後はこのような信頼性の高い統計による電子資料の利用状況を恒常的に把握、分析する必要がある、その結果は大学における学術資料構築、教育研究諸活動の有効な支援の基礎データとすることができる。このようなデータに基づき、パッケージや電子ジャーナルの比較検討や利用形態が明らかになることは、信州大学の教育・研究・学習・診療、その他の諸活動における学術情報基盤の一つとしての電子ジャーナル位置づけや整備方策の策定に欠かせないものである。

現在の電子ジャーナルは2005年まで継続することが学術情報・図書館委員会で承認されているが、国立大学法人に移行した後を含めて、より詳細で有効な統計利用を図り、大学の有効な学術情報基盤整備のためのステップとしたい。



## 第一次企画図書展を振り返って

平成15年1月から、「信大の6図書館の特徴を紹介し、この図書館ネットワークを目的に合わせて使いこなしてもらう」ことを目的に、『企画図書展』が始まりました。次の内容により1年間で各館を一巡しました。

期 間	担当館	テーマ (概要)	展示冊数
平成15年 1月～2月	中央館	enjoy信州大学 (より充実した大学生活のために、信州大学のこと、地域のこと、図書館のことを紹介)	25冊
2月～4月	教育学部	きょういく? 明日いく? 教育展! (子どもの発達、いじめを中心に)	40冊
5月～6月	医学部	あなたならどうする? マンガでみる症例研究 (手塚治虫「陽だまりの樹」から「ブラックジャックによるしく」まで)	106冊
7月～8月	工学部	若里で、作る、造る、を創めよう! —工学の原点と先端の世界へ— (ものづくりとナノテクをキーワードに)	41冊
9月～10月	農学部	食と緑の科学 (食と緑のフロンティアを切り拓き、生産から生活にわたる質の向上と健康増進に貢献する)	18冊
11月～12月	繊維学部	衣食同源 —古代から未来へ、基礎から応用へ— (衣と食に関わる素材の本と、それを学ぶための基礎になる入門書を)	42冊

利用者に、この企画や展示の本について投票してもらいました。

担当館	「企画図書展」という企画について		担当館の選んだ本について		今後の企画図書展の継続について	
	賛成・肯定	反対・否定	賛成・肯定	反対・否定	賛成・肯定	反対・否定
中央館	17	0	10	0	15	0
教育学部	14	0	7	0	9	1
医学部	35	1	32	0	32	1
工学部	5	1	1	3	3	1
農学部	0	1	1	1	0	0
繊維学部	7	0	8	0	8	0
合 計	78	3	59	4	67	3

最初は、物珍しくて投票してみようかな? という感じだったのでしょうか。また、とにかくマンガは人気がありました。後半はあまり積極的な意思表示はありませんでした。

しかし、本棚からの本の出入りの様子を見ていますと、当然のことではありますが、学生、特に学部学生が「新しくてわかりやすい本」を切実にほしいと思っていることが伝わってきました。電子ジャーナルの拡充など図書館の必要経費は高騰しており、全体の予算が限られている中で新しい本を揃えるのは難しい状況ですが、少しでも学生の学習用図書の整備を進めていかなければ、と再認識しました。

平成16年1月から、また新たなテーマ・視点で「第二次企画図書展」をスタートさせます。図書館に新しい蔵書が増えるという点でも、ご期待ください。

○○○○○○○○ **企画図書展点描** ○○○○○○○○

平成15年に第一次の企画図書展を開催した折のスナップをご紹介します。

中央館が選書して平成15年1月～2月に展示した本は、年度が変わって新しく信大にきた学生・教職員にも重宝されました。

教育学部の展示は、終了前から「いつから貸出ができますか?」という問合せもあり、有意義な本と受け止めてもらえたようです。

医学部の漫画は、人気投票もとても反応がよく、たくさんの「おもしろい!」「これが好き」という票をいただきました。

工学部は意外と学部外の教職員に興味を持っていただけたようです。「プロジェクトX」世代に受けた?

農学部は、地球環境とヒトの体内環境について「食」を切り口に展示しました。

繊維学部は、専門の材料工学と、それを理解するための理系全般の入門書をそろえ、特に入門書は人気でした。



閲覧室入口の展示コーナー

気になる投票の行方

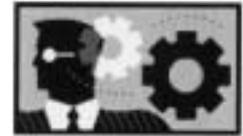


本屋でもないのに、面白い本は  
つい立って読んでしまう。

第一次の展示が終わって、本はそれぞれの本棚に入っています。どうぞ借出しをしてゆっくり読んでください。

「目からうろこが落ちる」  
**電子資料の使い方：電子資料関係レファレンス事例から**

信州大学で利用できる情報検索システムや電子ジャーナルに関して、今まで「花信」上で利用できるタイトルや方法などをご紹介してきました。今回は、図書館に対して寄せられたご質問を軸に、一味違う使い方をご紹介します。



**電子ジャーナルのIDとパスワード：個人登録について（中央館）**

- Q. 電子ジャーナルを使いたいのですが、出版社などのホームページがありますよね、あそこを開くとユーザIDとパスワードを入れる欄があるので、信大のIDとパスワードを教えてください。
- A. 電子ジャーナルのご利用をありがとうございます。現在、信大が契約している電子ジャーナルは、ほとんどがパソコンのIPアドレスによって認証されています。利用者がID、パスワードを入れる必要はなく、学内LANに正しく接続してあるパソコンからアクセスすれば利用できます。
- Q. では、どうしてID、パスワードの欄があるのですか？ どの電子ジャーナルのパッケージにもあるようですが。
- A. 利用者一人一人に対するサービスがあるからです。Elsevier(エルゼビア)社のScienceDirectを例に取りますと、パーソナルログインという名称で次のような個人向けサービスが準備されています。
- ・ 個人のジャーナルリストの作成：自分がよく見る雑誌を一覧にしておきます。
  - ・ 検索条件の保存、保存した検索条件での再実行
  - ・ 検索した履歴の利用
  - ・ 電子メールでのお知らせ
    - 登録した雑誌の最新号がScienceDirectに掲載されたら、通知します。
    - 登録したキーワードに該当する論文がScienceDirectに掲載されたら、通知します。
    - 登録した論文を引用する論文がScienceDirectに掲載されたら、通知します。

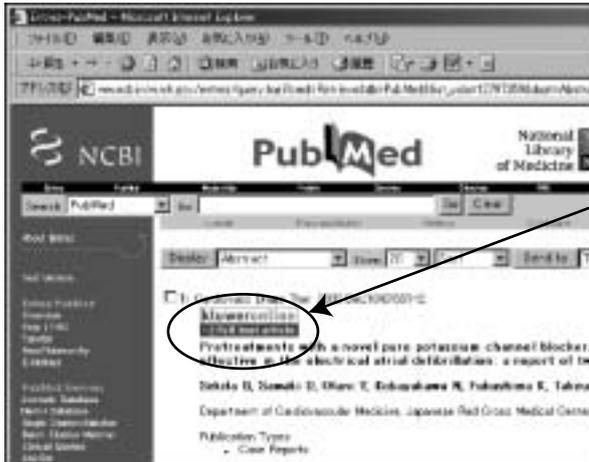
残念ながら、これらのサービスは各パッケージごとで提供されているので、複数のパッケージで横断的に利用することはできませんが、よく利用する雑誌があれば個人登録をすると便利です。

ScienceDirectのホームページ

## PubMedから電子ジャーナルへのアクセス方法（医学部分館）

1. PubMedの検索結果から必要な論文を選びAbstractを表示します。

2. Abstract表示画面に    等のアイコンが下の  
ように表示された論文には、電子ジャーナルにリンクが貼られています。



アイコンはここに表示されます

3. アイコンをクリックすると提供元または出版社のサイトに飛びますので、そちらの指示に従って全文を表示します。(表示方法は各サイトによって異なります。)

### 【リンクボタンを押しても全文が表示されないとき】

- ・ 契約していないタイトルである。
- ・ パスワード認証方式である。
- ・ 何からの事情で使えなくなっている。
- ・ 全文閲覧可能な巻号以外である。
- ・ 使っているパソコンが学内LANに繋がっていない。

\* 信州大学医学部・電子ジャーナルリスト (<http://mlib.md.shinshu-u.ac.jp/limit/electricj.html>) にて確認してください。購読できるジャーナルリストです。パスワード認証方式のパスワードがわかります。

(リスト掲載誌にも関わらず、利用できないタイトルがありましたら、医学部分館までご連絡ください。)

### 〈ご注意！〉

PubMedに電子ジャーナルリンクのアイコンが表示されなくても、電子ジャーナルにて全文閲覧が可能なタイトルもあります。雑誌の発行年が1996年以降であれば、信州大学医学部・電子ジャーナルリストにて利用の可否を確認してください。

### 利用講習会について

医学部分館では、PubMed等を使った文献の探し方、電子ジャーナルの利用方法などについて毎月利用講習会を行っております。2人以上でお申込みいただければ個別にも行いますので、どうぞお気軽にお申込

## 文献複写申込みからの電子ジャーナルの利用（農学部分館）

電子ジャーナルが利用できる事を知らず、文献複写を依頼してくるケースは多くあります。図書館の担当者は、1997年以降の文献であれば電子ジャーナルを探し、利用できれば依頼者に連絡しています。この過程の一部を、文献複写業務を通しての電子ジャーナルの利用事例としてご紹介します。

事例：利用者から図書館へ提出された文献複写申込（発行年が概ね1997年以降）で、電子ジャーナルが利用できる場合

下記回答に例示したように、図書館のOPAC、国立情報学研究所のWebCat、電子ジャーナルパッケージ附属の検索システムなどを用いて書誌・所蔵情報を調査してみてください。信州大学での利用の可否や所蔵機関名がわかり、時間・手間を省略でき文献を早期に利用することができます。

図書館職員も、依頼者への過去の回答数、電子ジャーナル利用頻度等を考慮しながら図書館の回答1～3を組み合わせ、電子メールで連絡しています。

### 図書館の回答 1

依頼された雑誌は信州大学で契約している電子ジャーナルで入手できます。

信州大学電子ジャーナル情報URL

<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/gakunai/ejhome/ejzajo.html>

Springer Linkからお入り下さい。

\*雑誌名からの検索には以下が便利です。

①<http://webcat.nii.ac.jp/> WebCat（国立情報学研究所）

雑誌名で検索して、コンピュータファイル（リモートファイル）の表示があれば電子ジャーナルです。URLをクリックすれば、IPアドレスで管理しているので、契約パッケージならほぼフルテキストの利用ができます。（ScienceDirectは所蔵図書館に信大があれば利用できます）

②<http://mlib.md.shinshu-u.ac.jp/limit/electricj.html> 信州大学医学部・電子ジャーナルリスト（信州大学附属図書館医学部分館作成）

### 図書館の回答 2

電子ジャーナルの個々のパッケージには「search機能」がありパッケージ内での文献検索が可能です。ヒットすれば即フルテキストを利用できる事が多いです。是非この機能も御利用下さい。

### 図書館の回答 3

契約電子ジャーナルパッケージ以外にも以下が有用ですのでお試し下さい。

①<http://highwire.stanford.edu/> HighWire（スタンフォード大学作成）

学協会で発行しているライフサイエンス関係の有力雑誌が見られます。著者名、KeywordsからMedline（PubMed）も同時に検索できますので、文献検索にも利用できます。

②<http://rms2.agsearch.agropedia.affrc.go.jp/contents/JASI/index.html> 農林水産研究成果ライブラリ（農林水産研究情報センター）

農学系の試験研究機関（農林水産省関係、公立）の研究報告がフルテキストで見られます。

### SciFinderとフルテキスト（繊維学部分館）

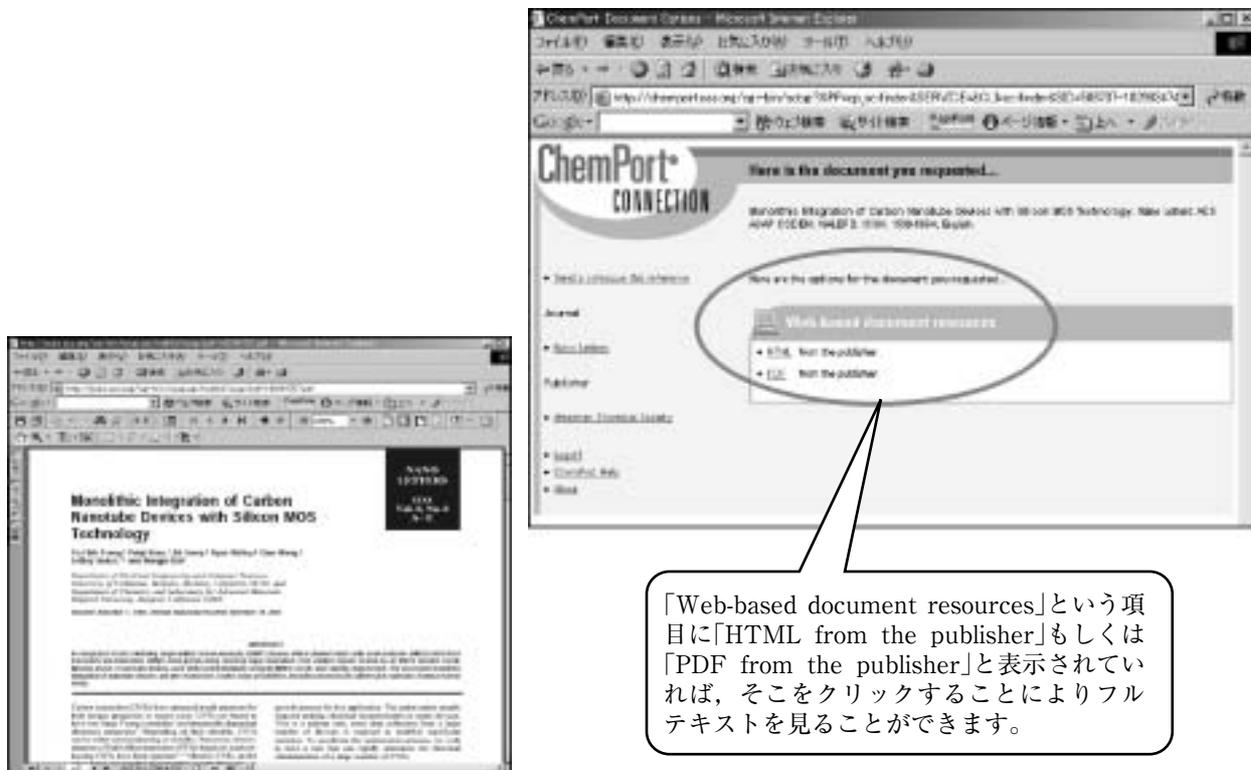
Q：「SciFinderの検索結果からフルテキストを見ることはできますか？」

A：「SciFinderの検索結果の右側にパソコンの絵のアイコンが表示された場合、フルテキストを見ることが出来る可能性があります。」

#### 1. 【SciFinderの検索結果画面】



2. 自動でブラウザが開き「ChemPort」のページが表示されます。



#### 3. フルテキスト表示例（PDF版）

信州大学で契約していない雑誌については、フルテキストが見られないことがありますので、ご了承下さい。

# お知らせ

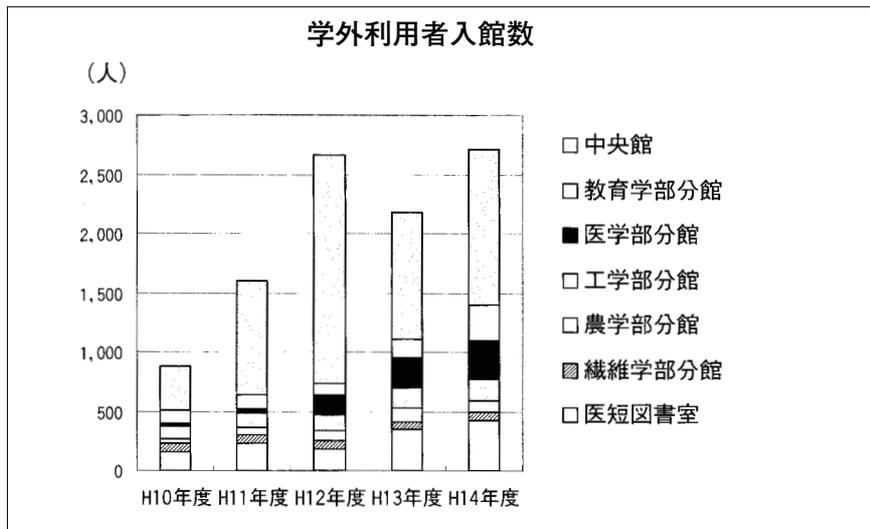
## 一般市民への館外貸出が始まって2年たちました

— 信州大学附属図書館の地域開放 —

信州大学附属図書館では、以前から学外の利用者を受け入れてきましたが、大学改革の一環としての地域社会への貢献の拡充を目的に、平成13年10月から学外の利用者への図書の館外貸出をはじめました。

サービスをはじめの前に、平成11年度までの実績を基にどのくらいの利用がありそうか予測をしました。その時点では、信州大学全体で年間150～200冊程度の貸出があるだろうと考えていました。実際ははじめてみますと予想をはるかに上回って、初年度の平成13年度が半年で200冊をこえ、2年目の14年度は年間700冊近い図書の貸出がありました。

その理由として、ひとつには、学外の方の利用自体が12年度以降大きく増えていること。もうひとつには、毎日大学へ来ている学内利用者に比べて、来学頻度の低い学外の方は館外貸出を利用する割合がとて高いということがあります。いかに館外貸出が望まれていたかを実感して、大学職員として、また図書館員として、よりサービスの向上に努めようと決意を新たにしています。

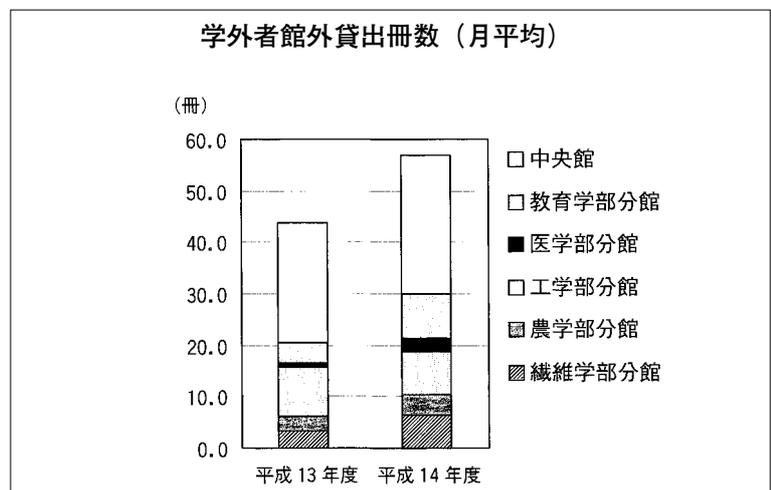


平成12年度から、大幅に入館者数が増えました。

大学が開始した「市民開放授業」の受講生が図書館を利用されるのも、入館者数増加の一因です。大学全体としての地域貢献が進んでいます。

学外者の館外貸出は多くの館で1回2冊です。きちんと、毎週2冊を借りられる方もいらっしゃいます。

返却が遅れるなどの、「困ったこと」は、ほとんどありません。



信州大学附属図書館の閲覧室は、利用者が自由に本を手にとって使える「開架(かいか)」の資料の割合が高くなっています。図書館の中にある資料は、OPAC(オーパック=オンライン蔵書検索)を利用しながら、あれこれと興味の向くままにお使いいただけます。

中央館を例にとって、この開架スペースにある資料をご紹介します。一般の図書だけではなく、次のような幅広い資料約14万冊が開架スペースにあります。

- ・旧制松本高校(現在、あがたの森公園になっている所です)を引き継いだ文理学部時代の図書。
- ・国内主要日刊紙やJapan Times、市民タイムスまでの新聞。
- ・Nature、Scienceをはじめとした学術雑誌の最新号。また、一般週刊誌や総合誌、地方情報誌もあります。
- ・大学図書館の宝と言われる学術雑誌のバックナンバー。何十年も前の学術雑誌も製本して保管しています。

## 本学関係者著作寄贈図書の紹介

(平成15年1月～平成15年6月)

ご寄贈くださいました皆様にお礼申し上げます。内容紹介は寄贈者からいただいたものです。

書名	山に学ぶ 山と生きる 山と里を活かす		
発行者	信濃毎日新聞社	出版年	2003
寄贈者	信州大学山岳科学総合研究所	所属	信州大学山岳科学総合研究所

この「山岳科学叢書」のシリーズは、2002年に信州大学に発足した山岳科学総合研究所が、その研究成果をわかりやすく読んでいただくために出版を企画したものである。引き続いて第3巻以降の計画をしている。その奥付に「山岳科学を世に問う」と宣言して、信州大学が開拓しようとしている新しい学問研究の新領域は、信州大学が立地しているこの地域の山とその裾野の自然と社会をフィールドとして、自然と人間の相互関係にかかわる諸課題の実践的解決をめざすものであるとしている。なお、2巻とも日本図書館協会の選定図書になっている。

第1巻は、研究所創設のプレイベントとして開催された「山岳科学フォーラム」の20の講演を読みやすく編集したもの。自然科学の研究者だけでなく、登山家・文化人類学・歴史・文学研究者も加わって、「山への想い」「山の営み」「山の恵み」を縦横に語ってくれる。とりわけ、登山の経験を基礎にした稀有の探検家でもある梅棹忠夫先生の巻頭対談は、類まれなる個性があふれ出て興味が尽きない。山に関する多様な課題へのアプローチに最適の書である。

第2巻は、農学研究者を中心に理学・人文学者も参加して、山と里山の環境問題を人とのかわりかきで論じて、将来への提言を行っている。リオでの環境サミット1992の10年後を記念して、昨年は国連の「国際山岳年」であったが、国際的にも山岳環境は気候変動や開発の結果さまざまな危機に直面している。生態系の変化、山岳資源の無秩序な破壊、山地経済の劣化、独自文化の衰退、観光開発の影響、下流域への悪影響などが国際山岳年の共通関心であったが、信州の山地も同じ課題を抱えている。「地域に根ざしつつグローバルな貢献を」という研究所の理念に沿った研究課題を理解するにふさわしい好書である。

書名	周辺から見た20世紀中国—日・韓・台・港・中の対話—		
発行者	中国書店	出版年	2002
寄贈者	久保 亨	所属	人文学部

疾走する中国を東アジアの中国現代史研究者はどう見るか。21世紀最初の年、対馬に集った5つの地域を代表する研究者が、「周辺から見た20世紀中国」をテーマに正面からわたりあった。その3日間の濃厚な学術討論の中身が収録されている。韓国での中国近現代史研究の急進展、台湾や香港における新たな歴史意識の台頭なども紹介されており、各地の中国現代史研究の最前線を知り、中国と東アジアの今後を考える上でも有意義な一書。

書名	新興福祉国家論：アジアとラテンアメリカの比較研究		
発行者	アジア経済研究所	出版年	2003
寄贈者	金 早雪	所属	経済学部

本書は、アジア経済研究所のラテンアメリカ研究者を中心に、先進諸国に限られてきた福祉国家論にアジアも含めて切り込もうという野心作である。先進国間でも福祉国家は多様なだけに、アジア4カ国（台湾、韓国、香港、インド）とラテンアメリカ4カ国（アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、キューバ）について論じるとなれば、当然、福祉国家とその研究方法も再考せざるを得ない。第1章「福祉国家論の視角」（宇佐見耕一）がそれに取り組んでいる。本書執筆者の一人として、社会的公平と豊かさの質について、今や欧米以外から学ぶことも多いと実感し、日本だけを欧米との対比で特殊としてきた認識に一石投じたのではと、自負するところである。

書名	フラクタル		
発行者	朝倉書店	出版年	2002
寄贈者	本田 勝也	所属	理学部

題名にある「フラクタル」は全体像のミニチュアを自分自身の中にあらゆるスケールで組み込んだ「自己相似性」を有する図形（パターン）を指す概念で、この概念を用いることによって、雲の形やカリフラワーなどこれまで身近にありながら簡単な曲線（曲面）では記述できない複雑な図形を科学の研究対象にすることが可能になりました。「フラクタル次元」という自然数でない次元によって、英虞湾と松島湾の大小関係を議論できるようになったのです。この本では、最初に数学者の興味の対象にすぎなかった奇妙な図形を取り上げ、フラクタル図形に慣れた上で、マンデルブロによって考案された「フラクタル次元」の簡便な測定法を説明します。後半では自然現象に現れるフラクタル図形のいくつかを紹介すると同時に、物理学的な方法による研究成果を議論しています。できるだけ分かり易い説明になるように工夫したつもりです。

書名	千曲川中流域・植物観察のてびき 千曲川・犀川の自然		
発行者	北陸建設弘済会	出版年	2002
寄贈者	桜井 善雄	所属	名誉教授

平成9年にわが国の河川法が改正され、河川管理に対して関係地域と住民の積極的な参加が求められるようになった。地域の自然と社会に対して重要なかわりをもつ川（湖を含む）の管理に住民の意見を反映させるには、住民自身が、管理者まかせではなく、地域の川の性質について正しい知識をもつことが大切である。国土交通省は近年この面で、川に関する知識の啓発と普及をはかるため、出版やさまざまなイベントを通して熱心に努力している。下記の出版物もそのような目的で国土交通省の千曲川河川事務所が企画出版したものである。

『千曲川中流域・植物観察のてびき』

川原には、水の中、湿地、乾いた砂礫地など、植物にとっての多様な生育環境があり、しかも洪水によって時々攪乱を受ける。したがって川原の植物には、多様な生存戦略をもった多様な種がみられ、また攪乱によって頻繁に裸地ができる結果、帰化植物の侵入と蔓延もさかんである。このような川原の植生は、植物観察の対象として興味深いばかりでなく、動物の生息条件をつくりだし、また生育する種や群落の性質を通して、その川の特性をすることもできる。本書は、環境の多様性に富んだ千曲川の中流域を対象にして、川原を訪れたときに目につく生育環境別の主な植物の100種あまりを写真で示し、簡単な解説を加えている。

『千曲川・犀川の自然』

日本最長の河川である信濃川の上流にあたる千曲川・犀川は、わが国の河川の中でも特異な性格をそなえている。本書はその流程を上中下流に分けて、地形の特徴や生きもののすみ場、代表的な動植物の種とそれらの分布、川の管理業務における自然環境への配慮などについて、豊富な写真と図を用いて分かりやすく簡潔に述べている。

この本は、『千曲川・犀川の地形と地質』および『千曲川・犀川の気象』を加えた三部作の中の一冊である。何れも郷土の川である千曲川と犀川の自然を専門的に知る手引きとなる好著である。

書名	千曲川・犀川の地形と地質		
発行者	北陸建設弘済会	出版年	2002
寄贈者	赤羽 貞幸	所属	教育学部
<p>長野県のほぼ北半分を千曲川と犀川の流域が占める。この両河川沿いには、大地のおいたちを物語る数々の特異な地形や地質現象が見られる。この地域に生活する人々が、豪雨や洪水・火山活動・地震などによる自然災害をさけ安全に暮らすためには、この地域の地形や地質の特徴を理解し、その生い立ちを知ることがまず重要なことである。この地形・地質の理解を助けるために、カラフルな図表や航空写真などを駆使し、簡潔な説明文を加えて構成したのが本冊子である。</p>			
書名	武器の進化と退化の学際的研究：弓矢編		
発行者	国際日本文化研究センター	出版年	2002
寄贈者	細谷 聡	所属	繊維学部
<p>本書は1998年度から2000年度までの3ケ年に渡って行われた国際日本文化研究センターの研究会「武器の進化・退化の社会科学的・工学的研究」の成果をまとめたものである。考古学、民族学、歴史学、工学、情報科学などの様々な研究者が、専門分野から日本の代表的な武器である弓矢を対象にして、関係する知見を述べている。社会の中で武器としての弓矢の位置づけは、鉄砲の伝来によって中世から近世を境に進化と退化が切り替わる。しかし武具としてみれば、カーボンファイバ等の新素材も弓矢の製造に利用され、現在でも進化し続けている。いろいろな側面から、日本の弓矢を見直していただく機会になればと思う。</p>			
書名	関谷俊行教授退官記念論文集		
発行者	信州大学教育学部美術科同窓会	出版年	1996
寄贈者	関谷 俊行	所属	名誉教授
<p>本論文集は、関谷俊行名誉教授の平成7年3月定年退官を祝賀、記念して信州大学教育学部美術科同窓会・記念行事実行委員会によって刊行されたものである。関谷氏は、造形・芸術教育に関する研究・教育活動のすべてを、美術教育の発展に捧げられるとともに、本学部卒業第一期生としての自覚と責任から学部の充実と教員の養成のために心血を注がれ、現在の教育学部の基礎を築かれた。論集の大部分は、氏の多年に亘る研究と記念論集の趣旨に賛同された方や先生の指導を受けた教え子達の研究による「研究実践論文の部」であるが、「感想・思い出の部」もあって氏の人柄が伝わってくる。氏の先見的で洞察力のある論考や他の執筆者のさまざまな視点からの論究は、教育の本質を突くものであり21世紀の教育のための視座を示唆できる内容である。</p>			
書名	信州ふるさとの歌の風景：吉本隆行監修／長野県商工会婦人部連合会編		
発行者	木戸一雄：ほおずき書籍株式会社	出版年	2000
寄贈者	吉本 隆行	所属	名誉教授
<p>長野県下108商工会の内部組織として婦人部連合会がある。同婦人部は、平成10年度から「21世紀への夢の架け橋」事業の一環として、信州の自然と文化・風土を次代に継承し、豊かで活力ある地域づくりを目指し、「ふるさとの歌」及び、歌に係わる風景に視点をあて、一冊にまとめる事業を行った。</p> <p>信州には、全国に慕われているふるさとの歌が数多くあり、有名な作詞家や作曲家が生み出され、数多くの地域が歌の舞台となった。長野県歌「信濃の国」(1900年)の作詞・作曲百周年を記念して、歌い込まれた長野県の地域や風土、産業、文化、時代背景、作詞者、作曲者等について考察したのをはじめ、掲載されたふるさとの歌について簡明な故事来歴等を付記した。曲種は、童謡、唱歌、歌曲、わらべうた、民謡等多岐にわたり、県出身の作詞者・作曲者の紹介も行っている。</p>			
書名	ソナティネ「鐘」：吉本隆行作曲／全音楽譜出版社ピアノピースNo.142		
発行者	全音楽譜出版社	出版年	1995
寄贈者	吉本 隆行	所属	名誉教授
<p>この曲は、3楽章から成るピアノのためのソナティネとして、東京芸術大学3年生(1962年)の時に作曲された。その後、少しずつ書き換えて、1995年に、このソナティネの「鐘」と題する第1楽章のみが全音楽譜出版社のピアノピース No.142として出版されたものである。</p> <p>この曲は、全楽章にわたり、一つの自然倍音音列によって作曲された作品である。その音列は、C, D, E, Fis, G, A, H, Bから成り、第1楽章の第1主題は、C音を基音に置いたC dur的な音階で、第2主題は同音階を5度上に転調し、G音を基音とした四七抜き(Cis, F抜き)の5音音階を用いた。「鐘」のタイトルは冒頭テーマの印象から付けられた。</p>			

書名	おさらい会のためのピアノ小曲集 3 : 吉本安秀作曲		
発行者	河村昭三:レッスンの友社	出版年	1987
寄贈者	吉本 隆行	所属	名誉教授
<p>この「ピアノ小曲集」は、ピアノを学ぶ子ども及び初心者を対象に作られた楽譜集である。ピアノ演奏が上達するまでには長い年月と沢山の練習量が要求される。その練習過程では必ずしも楽しいばかりでは済まされないものがある。そこで、おさらい会などで楽しめる要素を伴う曲作りを目標にして、具体的な題名を付してイメージを高め、演奏できる曲を28曲作曲した。</p> <p>旋律の創作は、歌う要素を追求できるような歌い易さ、美しさを求めた。また、難易度が易しくてもリズムミックスに弾む躍動感の伴った曲想の曲も組み入れた。また、和音も一寸した新鮮な響きを注入することを心がけるなど、楽しんで弾けるよう意図した。子どもが正確なリズム感、豊かなハーモニー感、的確なフレーズ感の把握を通して、美しい音楽表現を創造してほしいという願いを込めた曲集である。</p>			
書名	道 岡崎光雄教授退官記念誌		
発行者	岡崎光雄教授退官記念事業会	出版年	2003
寄贈者	岡崎 光雄	所属	名誉教授
<p>信州大学に奉職した20年間を中心に、研究室の職員を煩わしてまとめたものである。</p> <p>第Ⅲ部の新聞記事は、繊維学部の改組(昭和60年応用生物科学科に改組)を目的に、赴任の翌年(昭和59年)の「バイオテクノロジー信州シンポジウム」の開催とその波及効果を新聞記事で抜粋した。これを視野に入れ、目で追っていただければ幸いである。第Ⅳ部の思い出の写真は、やゝもすると学生が研究室に閉じこもりがちになる今日、出来るだけ野外に出て肌の触れ合いをと思い、教育の一環として行ったつもりである。第Ⅱ部は、折々に感じた事を綴りとして抄録した。つれづれなるままに目を通していただければ望外の幸せである。</p>			
書名	周手術期看護		
発行者	学研	出版年	2003
寄贈者	森田 孝子	所属	医学部保健学科
<p>本書は、手術を受ける患者の術前・術中・術後の全期間を指す周手術期にかかわる病棟・手術部・ICU・材料部・外来・管理部門その他の看護師、医師が協働して、日々の実践をもとに書き上げたものです。</p> <p>手術を受ける患者の特性、主な適応疾患と術式、周手術期看護の基本、周手術期看護に必要な基礎知識、術式別看護の展開、術前検査時看護、術前・術中・術後における観察ポイント、疾患別ケア、他の問題を抱えている手術患者のケア、退院指導、外科治療の進歩と看護の対応、看護記録と術式別標準看護計画等について倫理的側面にも触れながら明記されています。また、多忙な中でも活用し易い形になっていて実践力の向上に大いに役立つと思います。</p> <p>医学、看護学を学ぶ人だけでなく医療に従事する多くの人たちに是非読んで欲しい一冊です。</p>			

### 他の本学関係者著作寄贈図書一覧

館名	書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
中央館	戦後中国国民政府史の研究	中央大学出版部	2001	久保 亨	人文学部
	恐慌論研究： 宇野理論と近代経済学	東京図書出版会	2002	白鳥 重幸	元経済学部
	インターネット・ メディカル・レビュー	チーム医療	1996	村瀬 澄夫	医学部
	先生、電子メール使えますか？ : EUDORA PRO, Eudora-J入門	チーム医療	1997	村瀬 澄夫	医学部
教育学部 分館	理科教育：理論と実践	東京書籍	1991	伊藤 武	名誉教授
	絶対評価成功の秘訣・運用の基本	明治図書出版	2003	澁澤 文隆	教育学部
医学部 分館	脳室およびその周囲器官/ 板倉徹編著	ブレーン出版	2003	精神医学教室	医学部
工学部 分館	Graphite intercalation Compounds and applications	Oxford University Press	2003	遠藤 守信	工学部

## 分館 だより

### 農学部分館

来年4月から信州大学もいよいよ法人化を迎えることとなります。農学部分館でも法人化への対応とサービス向上を目指して今年度いろいろ取り組んできました。ここに今までの業務を振り返ってみたいと思います。

分館では法人化に伴う資産確定のための業務として、昨年度より図書原簿の電子化を進めてきました。本年度も、この業務を継続し、これまでに図書原簿にある約8万タイトルのすべてのデータ入力を行い、なかには60年以上前の資料などを電子化しました。この際、図書原簿の記載不備などは現資料との付合せをするなど様々な困難がありました。さらに電子化したデータを基に、図書館利用者の少ない夏休み期間中に、図書資料の現物点検を行いながら配架資料の移動も行うことができました。これを遂行できたのも職員やパート職員のがんばりのおかげだと感謝しています。これまでで法人化への資産確定のための準備はほとんどできたのではないかと考えています。

また、図書館経費の有効利用のため、購入図書資料の見直しを行いました。農学部の基本資料として、今まで図書館に配架していた図書資料のうち、インターネット上で公開している白書など7点を購入中止し、新たに必要とする資料を購入することにしました。

さらに農学部で作成している資料の電子化を図ることになり、現在信州大学農学部紀要の電子化を進めています。1990年発行の第27巻から2003年発行の39巻までをpdfファイルに電子化し、今年度中には信州大学農学部のホームページ上で公開できることとなります。

この12月には農学部分館活動をさらに発展させ、利用者へのサービス向上を図ることを目的として、3週間に渡り、アンケート調査を実施しました。アンケートにより、利用率の高い資料、図書館資料の評価、館内の環境評価、利用者へのサービス評価、館員の対応評価などを調査分析し、今後の改善をできることから行っていく予定です。

サービス向上の一つとして、昨年度末に図書自動貸出し返却装置を導入しましたが、中央館のご努力によりいただいた学長裁量経費から図書館入退館装置を今年度中に設置し、併せて図書資料の貸出しの簡易化、迅速化を図る予定です。

概ね、今年度の計画は遂行できる予定ですが、まだ大きな問題が残っています。それは利用率の低下した資料の保存問題です。経済から、工学、化学、生化学にわたる広い分野を有する応用学問である農学の性格上、利用率が下がったから全く不用な資料であると判断できない場合もあります。今後、保存庫を検討する必要があると思われませんが、分館の限りある書架に、すべての資料を保存しておく事も問題であり、専門図書館として必要な資料と不要資料(古書)をどのように切り分けるか検討しなくてはいけないと考えています。さらに図書館の建物の老化、資料の増加で収納も難しくなっています。図書館の改修が望まれますが、まだいつになるか見当もつきません。建物の拡張、集密書架の設置などまだまだ問題がたくさんあり、今後これらも検討して行かねばと思っています。

## 花 信 第14号 2003年12月31日 [平成15年度1回発行]

■ 編 集 花信編集委員会(長友良維・金井忠彦・林 康代・岩波峰子・野口眞澄)

■ 発 行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL 0263 (37) 2174・FAX 0263 (33) 5833

URL : <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/>

E-mail : [jjja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp](mailto:jjja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp)